

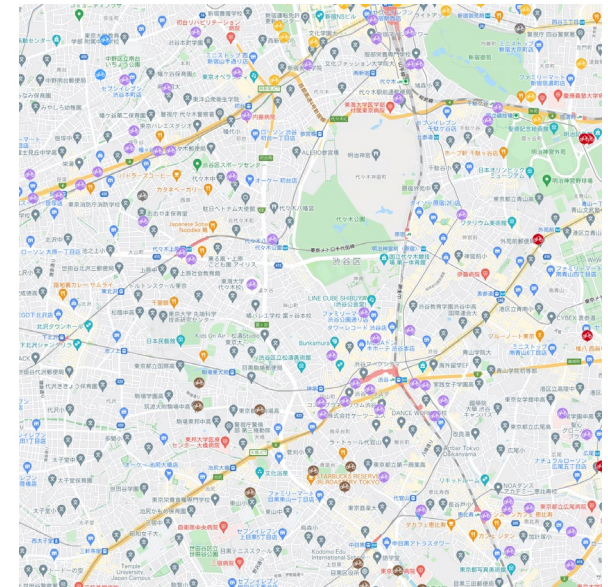
1. 地域連携の好事例

渋谷区におけるシェアサイクルの現状と立地について

環境に配慮しつつ快適に暮らしていけるような『持続可能な社会』への関心が高まっており、一切CO₂を排出しない乗り物として自転車が再び脚光を浴びている。こうした背景を持って始まったサービスとして「シェアサイクル」がある。利用者が増えれば交通渋滞の緩和を見込むこともでき、日本の都市部を中心にサービスが導入されている。

しかし、存在の知名度こそ上がってきたものの、利用者はそこまで増えていないというのが現状である。この問題を改善するためにサイクルポートの設置数や立地について、対象地域を東京都渋谷区としてGISを用いて空間的に分析を行っている。

今後は対象地域を東京都内11区（千代田区、中央区、港区、新宿区、文京区、江東区、品川区、目黒区、大田区、渋谷区、中野区）に拡大していく予定でいる。



東京自転車シェアリングポートマップより

2. 地域連携における課題

自治体・地域との
マッチングに係る
課題

本学で行っている研究や取り組みと、自治体や地域の課題解決につながるニーズをどのようにマッチングしていくか。

学内における
課題

学内の研究や取り組みを、全学横断的に把握する体制が十分ではない。



新たに地域連携や社会連携を担当する部署を立ち上げ、
課題解決に取り組む

3. その他特徴的な取り組み

① 認定

「フェアトレード大学基準」を満たしたことにより、一般社団法人日本フェアトレード・フォーラムから、「フェアトレード大学」として認定



② 登録

社会情報学部が、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて相模原市と共に取り組む「さがみはらSDGsパートナー」に登録



4. 地域ゼロカーボンワーキンググループに期待すること、幹事機関・事務局へのリクエスト

本ワーキンググループを通して、各大学の地域における先進的な取り組みを共有し、情報交換ができる貴重な機会となることを期待しています。

5. 地域ゼロカーボンワーキンググループへの意気込み・積極的な一言

大学を中心として、地域や自治体を巻き込み、ゼロカーボンに対する大きな流れに発展するよう尽力したいと考えています。